

8月1日開通の潤井川大橋

彫刻のある おしゃれ橋

昭和57年度から3ヵ年継続事業として、建設を進めてきた潤井川大橋は、8月1日に渡り初め式が行われ、交通開放されます。

この橋は、市役所西側の潤井川に架けられ、吉原と富士を結ぶ夢のかけ橋となります。

形は、巨大なアーチ形で、全国でも4番目の珍しいローゼ橋。

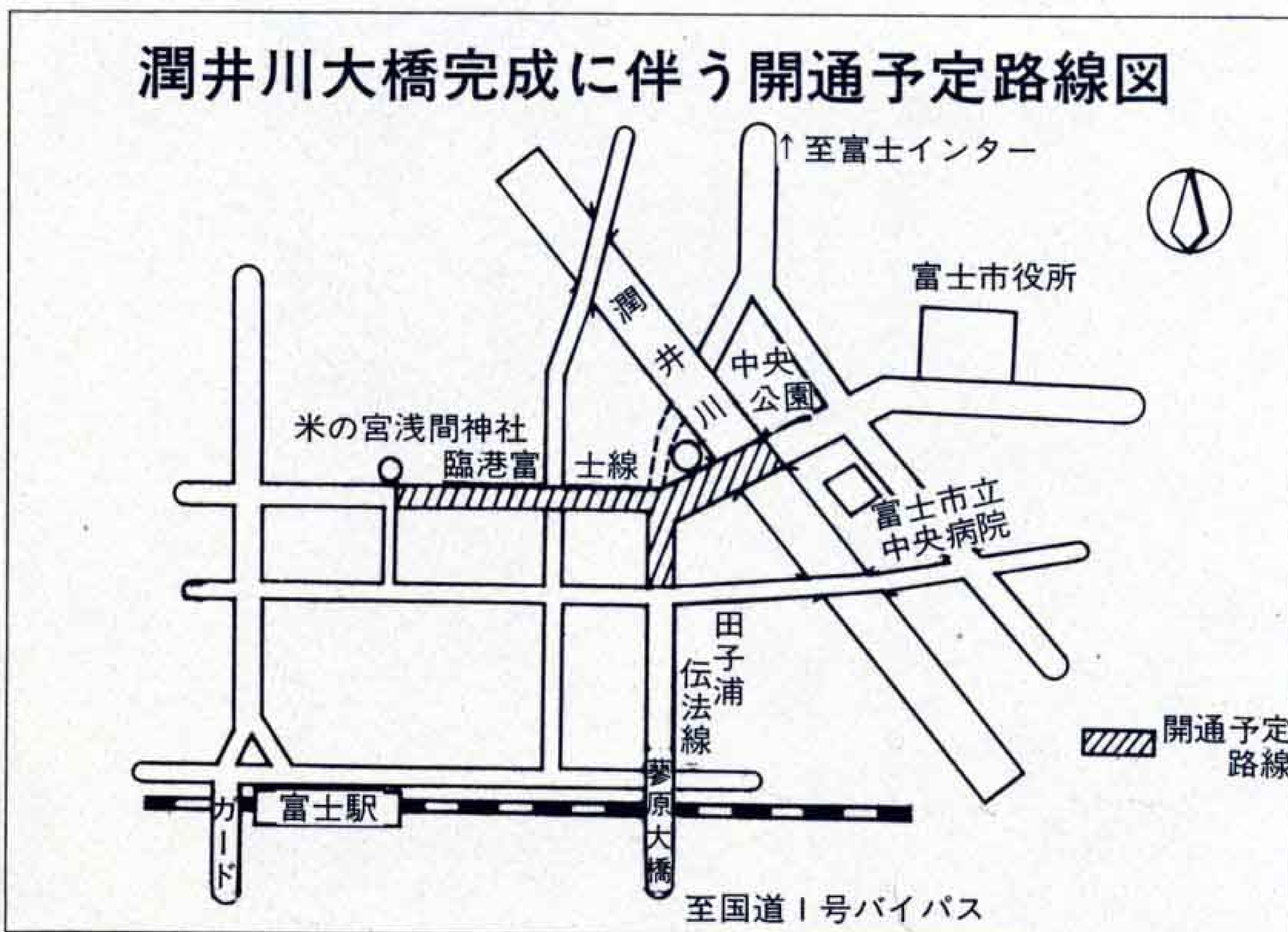
歩道も十分とり、ベンチやブロンズ像を置き、いままでの橋のイメージを一新し、文化の香りづけがなされています。

吉原と富士を結ぶかけ橋

8月1日に開通する潤井川大橋は、吉原地区と富士地区を結ぶ都市計画道路臨港富士線に、中部土地区画整理事業の一環として、総事業費6億8,600万円をかけて建設されました。

潤井川大橋は、長さ50.8メートル、幅34.5メートル（車道6車線21メートル、両側に5.5メートルの歩道、分離帯2.5メートル）で、中央にアーチをかけここから支線を出して、吊り橋の原理を利用して支える鋼床板単弦ローゼ橋方式を採用しました。

当日は、午前9時から渡り初め式を行い市内の三代三夫婦が古式にのっとり先頭を切って橋を渡り、午前11時には交通開放します。





△市のシンボル橋、潤井川大橋

歩いて渡りませんか

公共施設に文化の香りづけを考
えている市は、潤井川大橋を市のシ
ンボリックなものにしようと、歩道の
幅を十分に設けました。

長さ50.8メートルの大橋を、車で
さっと通過してしまうだけでなく、
富士山を一望しながら散策してみま
せんか。

歩道には、ベンチやブロンズ像4
体も設置します。

このブロンズ像は、昨年11月、市

民総意のもとに制定した市民憲章5
カ条のうち「思いやり」「自然」「働く
よろこび」「平和」の4カ条をテーマ
として、県内の中堅彫刻家である松
田裕康さん（藤枝市）重岡建治さん
（伊東市）に制作をお願いしました。

制作者は、テーマに沿って「求心」
「秀麗」「力」「翔」と題した4体を完
成させ大橋の渡り初め式にあわせて
除幕式を行います。

東西を結ぶ幹線道路に

大橋と同時に工事が進められてい

た潤井川から西の臨港富士線も、米
の宮神社までの1.1 キロメートルが
8月1日に開通します。

臨港富士線は、市内西部の岩松小
学校付近まで計画が立てられていま
す。

米の宮神社から岩松小学校までは
既存の道路を拡幅整備していく計画
ですから、今回の開通によって市役
所前を走る臨港富士線は、市内を東
西に結び、さらに国道1号線や国1
バイパスを横断する田子浦伝法線と
も接続されます。

新幹線富士駅実現に向け— 8人のスタッフで対策室を設置



新駅実現へ向け—協議する対策室スタッフ

東海道新幹線富士駅の実現を目指す市は、7月2日「新
幹線富士駅設置対策室」を発足させました。市は先に、
富士市案として新駅の設置場所を公表しましたが、対策
室の設置は新駅実現へ向けてより具体的な作業に入るた
めのものです。

対策室には、室長を含め8人の職員がスタッフとして
配置。辞令交付式で渡辺市長は「新駅設置は、富士市民
のみならず圏域住民の悲願です。実現に向け不退転の決
意で臨むので、皆さんもがんばってほしい……」とあい
さつ。

市はすでに用地費として、30億円を予算計上。対策室
では、用地測量や用地買収等の作業に入ります。